

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

二十四節気の「立冬」を迎え、暦の上では冬の始まりだ。北海道からは、初雪の便りも届き始め、冬の到来に備えようと自動車のタイ

ヤ交換も本格化してきた。

今日は「介護の日」だ。2008年に厚生労働省が、「いい(11)日、いい(11)日」の語呂合わせから、介護について理解を深める日として制定した。介護の日のキャッチコピーは「いい日、いい日、毎日、あったかい介護ありがとう」と親しみやすいのだが、介護の実態の厳しさは年々増してきている。

高齢化社会による「老老介護」、認知症の祖父や祖母ケア、障害のある兄弟姉妹の介護、病氣家族の世話などの家族がケアするこ

とは悪い事はないが、若くして家族の介護あたる「ヤングケアラー」の若年介護者が年々増加している。学業や人間関係を犠牲にしたり、就業者にとっても多くの困難を抱えている事も少なくない。

社現場で文化振興に取り組む熱意が展示作品から伝わってきた。今回初めて参加した長野県北アルプス地域振興局総務管理・環境課が開設した「北アルプス地域子ども応援プラットフォーム」の紹介コー

子どもの居場所づくりの大切さを知る

誰しもが介護当事者になりうることは否定できない社会構造の中で、この問題の議論が進んでほしい。

ナーは活動を多くの来場者に伝える趣旨が素敵だった。

4日から白馬ウイング21で開催された白馬村文化祭を訪れた。社会教育・学校教育・福

事務局担当の職員に質問すると「信州こどもカフェ」・北アルプス地域子ども居場所づくり」のパンフレットが手渡された。全国で

は「こども食堂」等の名称で地域の実情に応じたさまざまな子どもの居場所の取り組みがされている事は知っていたが、長野県では、学習支援・食事提供・悩み相談・学用品等のリユースなどの複数の機能を提供し、月1回以上開催、愛称「信州こどもカフェ」と呼ばれている事を初めて知った。

の説明は本当に心温まるものだった。直接的な支援活動はできないかもしれないが「食材提供」などの応援はと、考えさせられるコー

ナー設置は大変意義深い取り組みだと考えさせられた。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



文化祭会場の一角に展示された社会活動への呼び掛けの大切さが伝わってくる